

地方創生シンポジウム in 仙台

「知恵とアイデアで描く IT 社会の未来」開催



(一社)情報サービス産業協会(JISA)と(一社)宮城県情報サービス産業協会(MISA)の両協会は9月6日、ハーネル仙台(宮城県仙台市)において、「知恵とアイデアで描く IT 社会の未来」と銘打った地方創生シンポジウムを開催した。参加者は150名を超えた。宮城県や東北経済産業局等が後援した。

本シンポジウムは、JISA 中小経営委員会に、各県の情報サービス産業団体などからもメンバーにご参加いただき、経済社会の担い手が、地域の特徴、魅力、強みとIoTやAiを活用したビジネスに取り組む契機になること、またを地方創生のリーダーとなる人材を当産業から排出することを目的として企画された。

シンポジウムはMISAカンファレンス委員会の司会のもと、長坂正彦(JISA 理事、中小経営委員会委員長)と早坂栄二(MISA 会長)の主催者挨拶で始まった。

基調講演はグーグル(株)執行役員 杉原佳堯氏による「グーグルとみんなで作りかえる世界」。Xプロジェクトなどグーグルの問題意識と構想、ディープランニングによる画像認識の可能性など聴衆に大きなインパクトを与える内容だった。

グーグル社は世の中の重大な課題に対して、ラディカルな解決策を提案するために、問題の壁を突破する技術を追求しているという。たとえば、アフリカのような地に莫大な費用をかけた光ファイバーを施設するのではなく、気球を飛ばしてインターネットに

接続することや、グーグル社が開発する無人の自動車は自動車産業に乗り出すものではなく、自動車を運転出来ない僻地に一人で暮らす老人にとっても移動手段として自動運転の車は役立つのではないかといったことなどを例にグーグルの問題意識と構想を説明された。

招待講演は経済産業省情報処理振興課課長補佐の上松真也氏による「IoT推進ラボについて」、地方におけるプロジェクトの紹介や具体的な取組事例を多数紹介され、自治体を巻き込み、人材発掘にも資する政策の活用をアピールされた。

魅力的な事業紹介として（有）伊豆沼農産の代表取締役 伊藤秀雄氏による講演「あなたの食料、大丈夫！？農民からの提言」が行われた。

米の栽培から、ブルーベリー栽培、赤豚の育成・加工・販売（世界展開）などいわゆる農業の6次産業化のみならず、子供たちに食育・環境教育が体験できる事業、古老を活用した事業など地域特性・資源を活用した事業内容が紹介された。

最後に（株）インプレス編集主幹の田口潤氏を司会に既に講演された杉原氏、伊藤氏に加え、阿部嘉男氏（（株）SRA 東北）、芹川哲朗氏（（株）ノイス）による「独創性が未来を切り拓く」と題するパネルディスカッションが行われた。

ハードウェアや通信環境が大きく変化するなかで、独創性を生み出すAIやビッグデータなどの新しい技術への取組、また技術者への自由裁量時間などの働き方が話題に上った。

（尾股）